

図書館と出会う読書活動「ライぶらり」

山口県子ども読書支援センター

1 「ライぶらり」とは

参加者が図書館を散策し、面白そうと思った本を選び、なぜその本を選んだのかを短時間で紹介し合う、全員参加型の読書活動。山口県子ども読書支援センター（平成16年山口県立山口図書館内に設置）において考案。

2 目的 児童生徒を「図書館」と出合わせることによって、読書の幅を広げ、発達段階に応じた自主的な読書活動を促すとともに、学校図書館や公立図書館の自主的な活用を促進する。

3 特徴

- 指導者も、参加者も事前の準備を必要とせず、「いつでも」「誰でも」気軽に取り組める。
- 参加者の発達段階や目的に応じて、探す「時間」、「冊数」、「テーマ（条件）」などを自由に設定できるため、指導者が工夫して実践することができる。

4 実施方法



<基本的な流れ>

- (1) 「時間」、「冊数」、「テーマ」を決め、図書館を散策し、未読の面白そうな本を探す。
- (2) 4人程度のグループで、順番に「本を選んだ理由」を話す。
- (3) 友達が選んだ本を手に取り、グループで交流する。
- (4) 興味を持った本は貸出手続きをし、借りない本は元の場所に戻す。

<ポイント>

- ① 「異なる分類」から「3冊程度」選ぶ。
- ② 本の紹介ではなく、「どうして自分がその本を選んだか」を述べる。
- ③ 時間に余裕があれば、自分の選んだ本や友達の選んだ本を読む時間を取る。
- ④ 「借りる」ことを強要しない。
- ⑤ 「元の場所に戻す」という利用マナーを教える。

<補足>

- ⑥ ノンフィクションの本の魅力に気づかせるために、1回目は、文学以外の本を探す。
- ⑦ テーマによっては、探すヒントになるような本紹介を、始めに行う。
- ⑧ オリエンテーション、夏休み前、読書週間など、年間5回程度実施する。
- ⑨ 時間の目安
探す（15分～20分）、話す（1人1分）、交流（3分～5分）、貸出等（3分～5分）

<テーマの例>

ちょっと気になる本、写真や絵の多い本、古くても面白そうな本、埋もれているお宝本、読書感想文によさそうな本、自分に役立つような本、進路に役立つような本、○の学習に役立つような本、○○の学習を終えて興味を持った本、○○にピッタリの本、○○に薦める本、など皆さんのアイディアで！

5 発展的活動

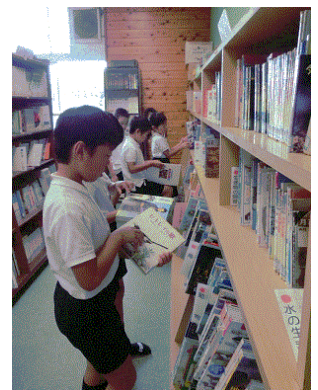
- ・ 探す本のテーマを児童生徒が考えて実施
- ・ 選んだ本をそのまま使って、テーマ展示を実施（〇〇の選んだ〇〇の本）
- ・ 図書委員会活動の際、図書委員が図書館に精通する目的で実施
- ・ 図書委員の自主的なイベントとして実施
- ・ 朝の読書の時間に「ミニライぶらり」として実施 等

6 期待できる効果

- 本を書架から取り出し、広げることで、読書への第一歩を踏み出せる。
- 「読みたい」「知りたい」気持ちが生まれる。
- 様々な分類の本や、友達の選んだ本を見ることで、読書の幅が広がる。
- 友達の本選びなどを参考に、本を選ぶ力がアップする。
- 本を通して友達とのコミュニケーションが広がる。
- 自分や友達の興味関心のある分野に気づき、自己や他者への理解が深まる。
- 図書館のどこにどんな本があるかを知り、図書館活用の力がつく。
- 古今東西の知恵が詰まった図書館の価値を知り、図書館利用の意欲が育つ。
- 各校種での実施により、切れ目のない継続的な読書活動ができる。

7 小学校の低学年で実施する場合

- ・ まず「借りたい本を選ぶ」、その後で「それと異なる分類の本を選ぶ」という手順で、2冊を選ぶことから始める。
- ・ 「本の背を見て書架から取り出す」「表紙を見る」「ページをめくる」という本選びの3段階を教える。
- ・ グループ活動では、「題名」を伝え合うことから始め、少しずつステップアップする。
- ・ 選んだ本を「借りなくてもよい」ことを確認し、気軽に本を選ばせる。



<問い合わせ先>

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館内）

〒753-0083 山口市後河原150-1

TEL (083)924-2111

FAX (083)932-2817

Eメール a50401@pref.yamaguchi.lg.jp